

学校便り

第371号
平成29年5月1日練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

ランドセルを背負って

校長 鈴木 隆志

今年度入学した1年生52名も、笑顔で毎日元気に、八小に通ってきています。八小の校章の「八」（円弧の部分）は、光が丘や田柄などの町から通う光っ子たちの通学路を表しています。光っ子たちが仲良く歩いてくる様子を、「八」に重ねているのです。1年生は、4月は三日間の集団登校のあと、6年生による「お迎え登校」でした。「お迎え登校」は八小のよき伝統と校風の一つです。6年生が1年生と手をつなぎ、笑顔で登校してきます。手をつなぎ、心をつなぎ、笑顔をつなぐ有意義な活動です。1年生にとって安心なだけでなく、6年生にとっても、最上級生としての自覚と責任感、さらに自己有用感を育むことにつながります。この一ヶ月間で育んだ1年生と6年生とのつながりは、これからの学校生活を紡ぐ上でも大きな効果を生み出します。5月2日で「お迎え登校」は終わり、連休明けからは、近所の光っ子たちと一緒に「仲よし登校」が始まります。学年に関係なく、誘い合って友達と一緒に登校するようにしてください。できるだけ、子供一人だけの登下校はしないようにお願いします。



小学生の登下校の姿を象徴するものが「ランドセル」です。ランドセルでなければならないというきまりはありませんが、ほとんどの子がランドセルを背負って登下校をしています。日本特有の文化であるように思いますが、ランドセルの語源はオランダ語です。ランドセルの誕生は、明治18年の学習院初等科の校則にさかのぼります。当初は、西洋式のリュックサックのような布製の鞆でした。この鞆は、オランダ語の「ランセル」というものでしたが、それが訛って「ランドセル」と呼ばれるようになりました。明治20年には、今の形と同じ、箱形のランドセルが誕生しています。それから130年間、耐久性があり、両手が自由に使え、転倒時にはクッションとなって後頭部を守るなどの特性から、小学生のランドセルは、ずっと使われ続けています。

東日本大震災による津波で、全校児童108名中74名が死亡、行方不明となった宮城県石巻市立大川小学校では、御遺族の皆さんが、「小さな命の意味を考える会」を発足させています。その会のホームページに、『ランドセル』という記事がありました。



ガレキに埋もれた学校で 見つかったランドセル
泣きながら洗って 4月からまた背負って 6年間一緒だったランドセル
母が書いてくれた名前 中には教科書と ノートと みんなの写真
思い出が詰まったランドセル……………
あの日、津波に飲まれながら助かった少年は、
その時背負っていたランドセルを卒業まで背負い続けました。

ランドセルは、子供や家族の思いも一緒に詰めて、おうちと学校を行き来します。筆箱にきれいに削った鉛筆を入れて学校に送り出したお母さんが、芯が丸くなった鉛筆を見て、学校でたくさん勉強したんだなと嬉しくなったり、テストの点数で一喜一憂したり、使われずに済んだ防犯ベルにほっとしたり、ランドセルには、その子の学校での生活ぶりも、詰まっているのです。私は、ランドセルをポーンと放り投げてすぐに外に遊びに行く子供でしたが、親としては、ランドセルをも抱きしめたいくなるような気持ちなのでしょうね。

ランドセルを背負って、笑顔で毎日学校に通い、笑顔でおうちに帰ってほしいと願っています。